平成３０年度　第２号
平成３０年１２月　５日発行

湖畔

北海道立大沼学園
〒 041 － 1355
北海道亀田郡七飯町字西大沼８番地
TEL 0138 － 67 － 2014
FAX 0138 － 67 － 2032
hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp
http：//www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/ong/

蝶の羽ばたき

園長　三浦　辰也

この号が発行される頃、大沼には雪がちらつく季節となります。

先ほど、ひとりの少年が学園を離れ、新しい世界に踏み出しました。退園間近になった時、彼の心は落ち着きを失います。この夏、横浜で開催された全日本少年野球大会で二枚看板のピッチャーでした。炎天下のその日、どんなにピンチでも淡々とプレイをします。一見落ちついてみえるその表情からは心の中を見通すことはできません。１試合目が終了した時、崩れ落ちるようにアスファルトの上にしゃがみ込み大の字になります。北の大地の子どもたちは３６度を超える暑さと８回を戦いきった疲労で皆同じような有様でした。

教員に暴言を吐いてしまいました。心情を察する想像力と感受性があったならば暴言を引き出すことはなかったと思いますが、彼は心を落ちつかせるために晴天の空の下、黙々と森の中を歩いていました。教頭と歩む表情が強ばっています。私は学園グラウンドの階段に腰を掛けるよう勧めました。問いかけます。ずばり直球で。「学園を離れたくないんだろう。」力なく「はい」と。何故、次の場所に行くか分かるかと問いかけます。「学園に来た時と同じ失敗をしないためです。」唖然としてしまいました。「違うよ。君の将来を考えたら、２学期中から次のところで生活をした方が生活にも慣れて、高等学校進学の準備だっていいの。学園で君が学ぶものはもう何もないってこと」聞いているのかいないのかグランドを眺めています。私の視線の先には蝶が飛んでいました。

大沼学園は小さな羽ばたきをしています。私も、職員も、道本庁も。これからの学園運営を考える大きな節目の時を迎えています。関係する各部署の方達は連日深夜まで事務作業に追われています。全ては、子どもたちにとって最善の支援を行うために今後どのように運営体制を整えるのか。お一人おひとりが真剣に考えてくださっています。私はこの協議過程の中で、ひとり相撲で憤慨し、やりきれない気持ちになり、あの彼のように暴言めいたことを心の中で呟いている己を知るのです。

マサチューセッツ工科大学の気象学者ローレンツは蝶が羽ばたく小さな撹乱でも遠くの場所の気象に影響を与えるという問いかけをしました。バタフライ効果と呼ばれ、多くの寓話も生み出しました。全道からここでの生活を余儀なくされた子どもたち。地域の支えを受け、励ましを頂いている道立施設です。公立であるが故、具備しなければならない機能。北海道の社会的養護を支える「最後の砦」であらんがために小さな羽ばたきをしているのです。創設時の篤志家らが起こした風が今日の学園に届いています。羽ばたきの行く末が嵐を生むのであれば、１００年に渡って積み上げた眼前の風景が一変してしまいます。子どもと関係を作るには時間と労力が必要です。職員の育成も同様です。これを合理的な説明と根拠をもってして数量化することは至難の業です。子育てを数量化する親などいない。　私たちは迷蝶の如く青空を彷徨い続けるわけには参りません。

夏期キャンプ

専門主任　西澤　幸裕

今年のキャンプは上磯ダム公園までの道が豪雨による土砂崩れで通行できない事態となり、一時は森町鳥崎の緑とロックの広場を検討しましたが、迂回路が開通し上磯ダム公園となりました。昨年と同様楽しく無事に終えることが出来、担当者としてはホッと胸を撫でおろしたところです。

熊の出没情報に注意しながら、準備を進めて来ました。実科では炊事のための薪割り作業など、実科生と協力しながら行いました。

日程も終業式直後からの実施で慌ただしい点もありましたが、参加する先生・生徒みんなの協力でスムーズに予定通り動くことが出来ました。子ども達も釣りや水遊び、キャッチボールなど嬉しそうな顔で楽しんでくれていたと思います。食事も各寮でカレーを作り、それぞれ大変おいしくいただいていた様子で良かったです。

キャンプファイヤー、レクリエーションも事前に準備いただいた先生方のおかげで大変盛り上がりました。準備について感謝しております。また、深夜から早朝まで火の番をしていただいた先生方もお疲れの中ありがとうございました。

来年以降も天候と熊の出没に留意しながらの企画になると思いますが、夏の一時帰省前の子ども達の楽しい思い出として残るようなキャンプにして行きたいと思っております。

『キャンプ』　　キャンプでは、釣りをしたり、キャンプファイヤーをしました。カレーやアイスも食べました。初めての野性的なキャンプだったので驚きました。園長先生に魚のさばき方を教えてもらいました。ダムのキャンプ場では、あまり眠れなかったです。それと、キャッチボールはとても楽しかったです。

色々とたくさんの初体験が出来た、とても良いキャンプでした。

中二　Ｈくん

招待行事（ホテルランチ、北島三郎記念館見学）

専門主任　安藤　達

９月２２日、澄信一・マサノ様ご夫妻より、北島三郎記念館の見学とウイニングホテルでのランチをご招待いただきました。当日は、用意してくださったバスに乗り込む前から、生徒はもちろん職員もワクワクしていました。

有嶋三次社長様らのお出迎えを受け緊張した面持ちの生徒。最初に記念館を見学しました。今の生徒は、名前を聞いてもわからないようで、おなじみの曲やキタサンブラックという馬の名前を聞いてわかったようでした。北島三郎の足跡を模したテーマパーク、コンサートの疑似体験ができるブースなど、出口には金色の本人像があり、握手をしたりと、とても楽しい時間でした。

いよいよランチです。一人ひとりにステーキやお刺身など盛り付けられたお膳が用意され、皆緊張しながらも窓からの景色を眺めながら、嬉しそうに食べていました。デザートを食べる頃には緊張もほぐれ、笑顔になっていたようです。

最後に澄様より「記念館でみた太鼓の演奏のように、学園祭での太鼓や劇を楽しみにしています。」の言葉に『頑張ろう!!』という気持ちを持った子もいたことと思います。

今回のお礼に生徒から作文集をお渡ししましたが、生徒にはどんな事に対しても感謝の気持ちを忘れないで欲しいと感じた一日でした。

とても素敵な機会を与えてくださり、ありがとうございました。

『澄 様の招待で行った、ウイニングホテル』　　ぼくは今回、澄 様に招待していただいた北島三郎記念館では、北島三郎さんがとても悲しい過去を経験してきている方だとわかりました。また、知らなかった事もありました。ぼくが幼少時に見ていたＮＨＫのアニメの主題歌も、北島三郎さんが歌っていた曲とは知りませんでした。

またその後の昼食では、ステーキやお刺身などがとても美味しかったです。

このような豪勢な食事ができて、とても嬉しかったです。

中二　Ｙくん

第６９回全日本少年野球大会

福祉専門員　熊本　淳

「白い球(ボール)に　アツい日の　全国横浜スタジアム～　祭りだ　祭りだ　祭りだ　学園祭り
　土の匂いのしみこんだ　ベスト８が　宝物～」　～(中略)～
「見ろよ　最後まであきらめず　　みんな応援　ありがとう～」

　和太鼓クラブが学園祭や近隣の小学校で発表した際、メンバーが道南出身の著名な歌手に扮し、替え歌に全国大会での思いを乗せて披露しました。メンバーは、しばらく経った今でも、昨日のことのように大会での思い出を語り合う時があります。このような胸に刻み込まれる大会について、ここでは振り返っていきます

「５年振り　～大会へ参加するまで～」

　大沼学園野球部は、２０１８年８月２６日～２８日に横浜市で開催された全国大会へ出場しました。５年振りの全国大会出場です。今大会を迎えるまでに、様々なサポートがありました。コーチは連絡員として、大会事務局と念密に調整し、メンバーひとり一人の写真が表紙のしおりを作成し配布しました。またもう一人のコーチが生地までこだわり作成された、全国大会出場記念ポロシャツをメンバーと職員で着用し、さらにはトレーニングシューズも揃え、横浜スタジアムへ向かうことになりました。東北・北海道地区大会を凌ぐ応援に感動しました。鈴蘭谷分校の教職員による空港での盛大であたたかな送り迎えは胸を打ちました。また、大会に同行した教員は、５年間私も含め野球部をサポートし続け、この一文では感謝を言い表すことができません。北海道本庁より辻泰弘副知事を始め、佐藤敏保健福祉部長、栗井是臣少子高齢化対策監、保健福祉部職員の皆さまの連名で「一球入魂」という激励メッセージを頂戴し、保健福祉部総務課佐賀井課長からも「大沼旋風を」とアツい言葉を贈っていただきました。このことは、もちろんメンバーの耳にも届いています。さらには北海道新聞の取材があり、伊藤友佳子記者はメンバーのインタビューを交えて、「大沼学園　５年振り全国」とステキな記事を書いていただき、野球部の背番号配布場面が大きく紹介されました。ここでは、全て書き切れないほどの応援をしていただいた方々へ感謝申し上げます。

「正に夢中　～大会期間中～」

　プロ野球球団横浜ベイスターズの本拠地である、横浜スタジアムへ足を踏み入れました。抽選の結果、スタジアムでの試合は叶いませんでしたが、抽選会と開会式でピッチに立つことができ、感激していました。開会式では、横浜ベイスターズの山﨑康晃選手からビデオメッセージがバックスクリーンで映し出され、驚きの表情を隠せません。夕食は中華街で用意され、貴重な体験となりました。このような機会を提供し、また様々な出来事に対応していただいた大会事務局の横浜市向陽学園に御礼申し上げます。

　第１回戦は学園史に残る激闘となりました。８月２７日(月)１１時プレイボール、海老名総合運動場にて国立武蔵野学院との試合。ほぼ体温と同じ気温、そしてグラウンドレベルではさらにアツさを体感するという、道産子には「なまら」(とても)厳しい環境でした。このような炎天下の中、球場へ駆けつけ、応援していただいた方々がいました。衆議院議員の逢坂誠二議員がご多忙の合間を縫って、球場へ駆けつけ、子ども達にアツいエールを贈っていただき、逢坂議員のＳＮＳでも紹介されました。また、東北・北海道地区岩手大会と同様に、長年学園をご支援していただいている澄信一・マサノ夫妻も現地で試合を観戦され、メンバーへのあたたかなお声かけを頂戴しました。多大なるご支援、感謝申し上げます。

　さて試合ですが、先攻の大沼学園は４回終了まで４点リード、後攻の武蔵野学院は５回一挙４点で同点、６回裏に１点を挙げ、１点リードをされて迎えた最終回、円陣を組みました。「東北・北海道を思い出せ」、それは東北・北海道地区大会決勝戦最終回、１点リードで２アウトから逆転負けという悔しい思い出がよみがえり、その貴重な経験が活かされます。武蔵野学院１点リードのまま、２アウト２ストライクという絶体絶命の場面、メンバーはあきらめません。ボールに食らいつき、ヒットでつなぎ同点。その後も点数を重ね、守備では高く舞い上がったライトフライ、落球すれば負けという状況で余裕（奇跡）の片手キャッチなどが見られ、８対７で勝利。まさにルーズベルトゲーム。延長８回３時間近くに及ぶ激闘でした。職員が逐一連絡を入れたことで、職員室でも一喜一憂し、試合

終了時は歓声が上がったそうです。負けて学ぶこともありましたが、我々にとって以前の経験からも勝つことに大きな意義を感じた試合でした。

第２回戦は、同日１６時プレイボール、大阪府立修徳学院との一戦。試合開始まで、疲れ果てたメンバーは昼食も食べることができず、地べたで横になり、精一杯の状況でした。ピッチャーが放るボールが上ずり、ストライクが入りません。修徳学院の見事なバッティングやランナーの動きなどから大量失点。でも、メンバー同士の声かけは止まず、前向きです。最終回、必死にベンチワークに励んでいたメンバーが代打で出場した時は、ベンチが最高潮に盛り上がりました。がしかし、最後は満塁となり１点取れるかという場面で、みんなの「走れ」という声でホームへ激走もタッチアウトでゲームセット。０対１８（３回コールド負）でした。大敗でした。悔しさもあったと思いますが、力を出し切った、やりきったという表情は、清々しさを感じさせました。第１試合が思い出に残っているメンバーが多いですが、この試合を語るメンバーも少なくありません。このような環境を与えてくれる、野球大会の存在意義は極めて大きいでしょう。

結果、東北・北海道勢では唯一の初戦突破、ベスト８になりました。奇しくも５年前の福岡大会と同じベスト８。また、地区大会において、福島県立福島学園と宮城県立さわらび学園からも最後まであきらめない姿勢を学び、そしてパワーをもらい、苦境においても闘い抜くことができました。

「勝って学び、負けても学ぶ　～まとめ～」

この野球大会を通じて、地域の応援または職員とチームメイトからのサポートを活かし、大会では真剣勝負における全力プレイやプレッシャーのかかる場面を経験し、活動を終えた時に「やって良かった」と思えるか、そして北海道の新キャッチコピーである「その先の、道へ。」のように、経験を活かして、今後各々の道をどう歩んでいくのかが重要だと思います。応援される、愛されるチームや人であってほしいと思います。

野球部のテーマである「チームワーク」・「フットワーク」、そして「気持ちをワクワーク」というように、真剣勝負だからこそ経験できる本当の楽しさを味わえたのではないでしょうか。

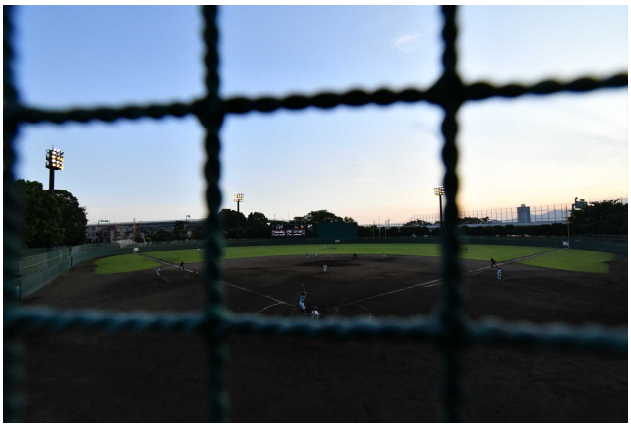
最後になりますが、中３生の教室には、全国大会の写真が掲示されており、そこにはこう書かれてあります。題して、「一生の思い出」。私もそう思います。本当にありがとう。

『全国野球大会』　　僕達は、地区大会で準優勝になり全国大会に出場できて良かったなと思いました。僕は主将として、自分の手で勝利に貢献することが出来たので良かったです。

横浜で行われた全国大会の一試合目は､僕の一番の課題でもあるコントロールが抜群に良く決まり、ほぼ無失点で抑えることが出来た事が大会での一番の思い出です。

２試合目は、惜しい結果で終わってしまいました。

中三　Ｋくん



マラソン大会

福祉専門員　片石　健太

今年のマラソン大会は、これまで行っていた試走をやめ、本番のみの一回勝負で行いました。当日は天気にも恵まれ、ベストコンディションで走ることができました。コースは、大沼湖畔周辺を６キロ（小学生は３キロ）です。大きな怪我をすることもなく、全員完走することができました。子ども達は、分校での授業を通じて基礎体力を高め、さらに寮での自主練習などを経てそれぞれのベストを尽くして走っていたのではないかと思います。子ども達には、勝ち負けよりも、最後まで走りきることができるコース整備を行ってくれた人や、粘り強く一緒に併走してくれた人、周りからの応援をしてくれた人など、たくさんの人に支えられたことを何よりも学んで、いつの日か子ども達も誰かを支えていけるような存在になってくれれば、そう思っています。

『優勝』　今年のマラソン大会では自分が優勝する事が出来ました。今年は、優勝するために毎日練習を頑張りました。それでも、良いタイムで走れなかったりしたときは、イライラして落ち込んだり、途中で走ることをあきらめてしまった時もありました。それでも先生方が応援してくれたお陰で、練習も頑張ることが出来ました。練習で頑張ることができたから、本番でも頑張ることが出来ました。

来年も優勝出来るように頑張りたいです。

中二　Ｋくん

『マラソンで得たもの』　ぼくはマラソン大会で１０位という結果を出しました。でも自分は、順位は二の次だと思っています。大会に出るまでにどれくらい練習したかのかが大切だと思いました。

でも自分は練習がきつくて、練習をしたくないために、足が痛いなどと言ってうそを言ってしまい、自分に負けてしまい、練習しなくてもいいと言われてしまいました。それでも練習できるように取り戻そうとがんばり、ようやく寮長先生に「自主練して来い」と言ってもらえました。その言葉で自分が変わったのかもしれません。

来年こそは、今年の経験をいかしてがんばりたいと思います。

中二　Ｔくん

中学三年～修学旅行

福祉専門員　佐藤　勇介

平成３０年９月２６日から２８日にかけて、中学三年生の修学旅行に同行させていただきました。朝、子どもたちの顔を見ると、眠そうな子どもが多く、楽しみで寝られなかったんだろうなと思ったのもつかの間、バスに乗るやいなやテンションが上がり出し、なぜか私も自分の学生時代を思い出してしまいました。やはりいつの時代も児童にとって修学旅行は特別なものなのだと言うことを改めて感じました。

３日間をかけ、伊達時代村、水族館、ツリートレッキング、ラフティング、ルスツと、子ども達にとっては、初めて体験することも多く、はじめはちょっと緊張していた子ども達も、いつしか笑顔になり、楽しそうにしていたのがとても印象に残っています。

３日間を通して、分校の先生方に見守られながら、体調不良や怪我も無く過ごすことが出来ました。子ども達にとって、とても思い出に残る修学旅行になったのではないかと感じています。

『修学旅行が終わり』　　僕は、９月２６日から２８日までの３日間、修学旅行に行きとても楽しい思い出が出来たり、仲間との友情を深めることが出来ました。そして３日間、ケガもなく過ごせました。

修学旅行が終わり、中３の教室には受験が迫ってきていて楽しい雰囲気は終わってしまいました。

僕もこれを期に受験に備えて猛勉強中でとても大変です。

修学旅行は、良い思い出がたくさん出来て良かったです。

中三　Ｒくん

『修学旅行の思い出と学んだこと』　　修学旅行で一番印象があるのは、ラフティングです。９月の下旬だったので、水温が冷たく水の量が少なかったです。羊蹄山を目の前に野鳥・魚が見られ、ラフティングだけではなく景色や自然も楽しめました。

学んだことは、たくさんの人の協力があっての修学旅行です。　なので、感謝の気持ちを持って生活をするということを学べました。

とても良い修学旅行でした。

中三　Ｙくん

寮炊事遠足

生活指導係長　斉藤　利昭

今年の寮炊事遠足は秋晴れで非常に気持ちの良い天候のなかで実施する事が出来ました。芝蘭寮は東大沼キャンプ場を目指し、リヤカーに荷物を積んで子どもたちが交代でリヤカーを引きながら往復５時間近く徒歩で歩き切りました。蛍雪寮と晩翠寮は釣りに行って楽しんできたようです。大沼学園は決して便利な場所にはありませんが、大沼小沼湖畔に雄大な駒ヶ岳と絶景なロケーションを間近で観ることが出来るのは魅力的なことだと思います。子どもたちが大人になったときに、ここで暮らした思い出の一つとして、何を残してあげることが出来るのかを考えたとき、大沼湖畔１周をリヤカーを引いて歩いたことは辛くも達成感のある思い出として残るのではないかと考えました。正直、２０km近い距離を歩くことは一緒に歩く私も辛いです。車で１周すれば３０分も掛からないでしょう。しかし、自分の足で歩くことに大きな意味があると感じています。それは、この先の彼らの人生は、どんなに辛く苦しいことがあっても自分自身で一つ一つ乗り越えないといけません。彼らを支え、助け、応援してくれる人はいても、最終的に乗り越えるのは自分です。足が痛くても、一歩踏み出せば前に進みます。前に進んでいれば、どんなに時間が掛かってもいつかはゴールに辿り着きます。来年は、昔の寮炊事遠足のように全体行事として職員生徒全員で実施したいものです。

『寮炊事遠足』　　今回、自分は寮炊事遠足で初めて湖畔を１周歩きました。

寮のみんなといろいろ協力して、みんなとは仲間意識と信頼関係がより築けることが出来たと思います。さすがに最後の方は疲れたけど、湖畔を１周歩いて無事に学園に戻ってきたときは、達成感を感じることが出来て、すごく良い経験をする事が出来て良かったです。

中三　Ｙくん

ご寄附食品等
皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

（平成３０年７月１日～１０月）＊敬称略

澄マサノ（函館市）　松田進一（函館市）　財津自工（七飯町）　宮村内科（七飯町）　八島勲（七飯町）　佐藤隆三（七飯町）　ＭＯＡ 吉田（森町）　七飯町更正保護女性会（七飯町）　土屋（七飯町上軍川）

編集後記

９月６日、最大震度７となる胆振東部地震が起こりました。被災地の方々には、お見舞い申し上げます。

北海道全域が地震の影響にて停電となり被害も大きく、大変な衝撃を受けました。大沼学園では停電のため食事や入浴などに不便を生じましたが、子どもたちにも変わりはなく、大きな被害を受けなかったことに安堵しました。

丁度その週末に、歴史ある行事の一つの大沼地区少年野球大会を控えていて準備に取り掛かっていましたが、近隣の中学校が休校となり、参加中学校が安全に参加することが出来なくなったため中止になりました。今年度は、『第７０回大会』という記念すべき大会となるはずでした。また今年は、全日本少年野球東北・北海道地区大会にて準優勝をかざり、第６９回全日本少年野球大会・横浜市大会に出場を決めたことなど、子どもたちも野球魂を燃やしていましたのでとても残念でした。

しかし何よりも、子どもたちが明るく・元気でいてくれることが私たち大人の喜びです。

これからも、子どもたちの笑顔が輝けるように寄り添って行きたいと思います。

平成３０年度「湖畔第三号」は 平成３１年３月発行を予定しております。

今後とも御指導、応援をよろしくお願いいたします。

学　園　の　動　向

平成３０年度【７月～１０月】

７月３日　・室蘭児相よりＮくん入園
４日　・平成３０年度第１回連携会議
５日　・避難訓練（救命講習）
12日　・職員会議
・宿泊研修（中学２年、～１３日）
13日　・カヌー体験（小学生）
・保健福祉部独自研修（若手職員研修、渡島合同庁舎、佐藤勇介福祉専門員）
14日　・函館弁護士会との交流試合（野球部）
17日　・函館児相から研修生受け入れ（松山一也判定員、飯田雄士判定員、～１９日）
18日　・医診（かとうメンタルクリニック加藤知子副院長）
・環境整備活動
19日　・支援会議
・第２回道立児童自立支援施設のあり方検討会議（札幌市、佐藤自立支援課長、伊藤庶務係長出席）
20日　・薬物乱用防止教室（分校）
21日　・野田生中学校との交流試合（野球部）
22日　・理髪
23日　・内科検診
・不審者被害防止教室（分校）
24日　・大掃除（分校）
25日　・第１学期終業式
・キャンプ（上磯ダム公園キャンプ場、～２６日）
26日　・キャンプ２日目（上磯ダム公園キャンプ場）
28日　・園外活動（七重浜海水浴）
30日　・野球部練習
31日　・野球部練習（森町民野球場）

８月１日　・野球部練習（森町民野球場）
２日　・子育て支援セミナー（渡島合庁、佐藤自立支援課長、伊藤庶務係長）
３日　・夏期一時帰省開始（ＪＲ児童移送、斉籐孝宏専門主任、熊本淳福祉専門員、佐藤勇介福祉専門員）
４日　・園外活動（砂原漁港釣り体験）
５日　・園外活動（ちゃっぷりん館入浴）
７日　・園外活動（大沼合同遊船体験・レストランケルン外食）
８日　・帰園児童引率（ＪＲ札幌駅、片石福祉専門員）
９日　・第３回道立児童自立支援施設あり方検討会議（札幌市、三浦園長、佐藤自立支援課長、伊藤庶務係長出席）
10日　・園外活動（グリーンピア大沼レク）
・帰省児童引率（室蘭児童相談所、大國自立支援係長）
11日　・園外活動（七重浜海水浴場）
13日　・園外活動（シネマ太陽映画鑑賞）
15日　・夏期一時帰省終了（ＪＲ児童引率、折出茂樹福祉専門員、関口聖人児童自立支援専門員、小関逸弥専門主任）
・医診（かとうメンタルクリニック加藤知子副院長）
16日　・東北・北海道地区児童自立支援施設職員研修会（～１７日、北広島市、佐藤勇介福祉専門員）
17日　・室蘭児相よりＫくん入園
18日　・函館中央警察署チームとの交流試合（野球部）
19日　・尾札部中学校との交流試合（野球部）
20日　・第２学期始業式
・内科検診
・事務能力開発研修（渡島合庁、佐藤勇介福祉専門員）
21日　・メンタルヘルスセミナー（渡島合庁、三浦園長、佐藤自立支援課長）
22日　・職員会議
・名寄市立大学生保育実習（～９月３日）
23日　・支援会議
・野球部壮行会（体育館）
・出張（札幌市、佐藤自立支援課長）
25日　・野球部練習（体育館）
・函館心の里親会：全国大会出場激励

8月26日	・第６９回全日本少年野球大会（～２８日、神奈川県横浜市、野球部）
29日	・野球部報告会（全校朝会）
31日	・辻泰弘副知事視察、澄ご夫妻に知事感謝状贈呈（体育館）
9月1日	・旭岡・北中学校合同チーム交流試合（野球部）
2日	・理髪
3日	・開校記念日（分校） ・鹿部シニアスターズとの交流試合（鹿部町、野球部）
4日	・教育相談（伊達高等養護学校、児童引率、安藤達専門主任） ・学力テスト(中学全)
5日	・台風被害で倒木など発生 ・第４回道立児童自立支援施設あり方検討会議（札幌市、三浦園長、佐藤自立支援課長、伊藤庶務係長出席）
6日	・胆振東部地震発生（停電発生）
7日	・第７０回大沼地区少年野球大会中止決定（停電復旧）
10日	・内科検診
11日	・全寮買い物訓練 ・大沼小学校講演（三浦園長）
13日	・マラソン大会
19日	・職員会議 ・医診（かとうメンタルクリニック加藤知子副院長）
20日	・避難訓練（地震想定） ・支援会議
22日	・招待行事（函館ウイニングホテルにてランチ、北島三郎記念館見学）
23日	・園外活動（寮炊事遠足）
26日	・修学旅行（中学３年～２８日） ・函館児相よりＡくん入園 ・釧路児相との連絡協議会（川原田美樹児童福祉司来園）
28日	・社会科見学（小学生） ・数学科校外学習（中学１年）
10月1日	・Ｔくん退園　　・衣替え
3日	・全国児童自立支援施設職員研修会(～５日、神戸市、佐藤勇介福祉専門員）
4日	・函館児相との連絡協議会（田口文彦子ども支援課長、飯田聖治相談支援係長、尾見元之児童福祉司、寺尾尚児童福祉司来園） ・室蘭市教護会施設見学
5日	・森警察署少年補導員連絡協議会見学 ・室蘭児相よりＫくん入園
9日	・教育相談（小樽高等支援学校、安藤達専門主任引率） ・松前地区保護司会施設見学
11日	・中央児相との連絡協議会（三浦裕二児童福祉司、白川正一児童福祉司、妹尾郁子児童福祉司来園） ・職員巡回健康診断
12日	・北海少年院篤志面接委員施設見学
15日	・授業参観日 ・職員研修（講師：北星学園大学、栗山隆教授） ・道政パネル展（～１９日、渡島合庁） ・児童自立支援施設職員研修(中堅)（～１８日、国立武蔵野学院、熊本淳福祉専門員）
17日	・職員会議 ・医診（かとうメンタルクリニック加藤知子副院長） ・七飯町更生保護女性会講演（七飯町文化センター、三浦園長） ・教育相談（雨竜高等養護学校、斉藤生活指導係長引率）
18日	・東北・北海道地区児童自立支援施設協議会専門部会（心理）（～１９日、仙台市、青山主査（心理療法）） ・北海道教育庁坂本明彦教育部長視察
20日	・大沼地区文化祭（学園児童生徒出展～２１日）
22日	・内科検診
23日	・函館中央警察署少年補導員連絡協議会見学
24日	・室蘭児相よりＭくん入園 ・避難訓練（芝蘭寮から出火想定） ・支援会議 ・実科生公共機関の利用研修（小関逸弥専門主任、西澤幸裕専門主任引率）
25日	・出張（仙台市、三浦園長、伊藤庶務係長）
26日	・出張（仙台市→東京都、三浦園長）
27日	・ワックス掛け～２８日
28日	・理髪
29日	・岩見沢児相との連絡協議会（中澤睦子児童福祉司来園） ・実科生公共機関の利用研修（小関逸弥専門主任、西澤幸裕専門主任引率）
31日	・環境整備活動（学園祭）